

## 平成 25 年度 第 3 回土木計画学研究委員会幹事会 議事録

日時：平成 25 年 12 月 20 日（金）17:00～19:00

平成 25 年 12 月 21 日（土）9:00～17:00

場所：クロスウェーブ船橋 141 号室

### ■出席者

委員長：谷口 栄一（京都大学）、

副委員長：秋山 孝正（関西大学）

幹事長：多々納 裕一（京都大学）

学術小委員長：屋井 鉄雄（東京工業大学）

100 周年関係ビジョン委員会幹事：日比野 直彦（政策研究大学院）

春大会運営小委員長：轟 朝幸（日本大学）

委員兼幹事：

真田 純子（徳島大）、平田 輝満（茨城大）、有村 幹治（室蘭工大）、織田澤 利守（神戸大）、倉内 慎也（愛媛大）、福本 潤也（東北大）、藤見 俊夫（熊本大）、讃井 一将（国際協力機構）、嶋本 寛（宮崎大）、福田 大輔（東工大）

### ■資料

[資料 1] 前回幹事会議事録

[資料 2-1] 50 周年記念事業に関する幹事会打ち合わせ議事メモ

[資料 2-2] 「土木計画学ハンドブック」（仮題）出版企画書

[資料 3] JSCE2010 の実施状況に関する部門ごとの自己評価

[資料 4] 学会活動の 4 つの視点からの評価・PR について

[資料 5-③] 調査研究委員会における小委員会活動状況

[資料 5-④] 委員会 HP の英語化方針について

[資料 5-⑤] 土木計画学研究委員会国際セミナーについて

[資料 5-⑦] 土木計画学ワンデーセミナー「交通まちづくり」企画案

[資料 6] 春大会（東北工大）における他学会との併催セッションの扱いについて

[資料 7-1] 土木学会将来ビジョン（仮称）について

[資料 7-2] 土木学会将来ビジョン（仮称）の位置づけ

[資料 7-3] 「土木学会将来ビジョン（仮称）」執筆担当（案）

[資料 7-4] 「土木学会将来ビジョン（仮称）」の内容の例（交通）

## ■議事録

### 1. 前回幹事会議事録の確認 [資料 1]

- ・前回の議事録を確認した。

### 2. 計画学 50 周年に向けての行動計画の立案 [資料 2-1, 2-2]

#### 1) 計画学 50 周年記念のイベントとして下記の 3 つを行うことが決まった。

- ①50 周年記念セミナーシリーズ (仮称) の開催
- ②土木計画学ハンドブックの出版
- ③土木計画学研究発表会でのスペシャルセッションの開催

#### 2) 50 周年記念事業を担当する「50 周年記念事業委員」が「活動評価・中期目標対応」担当者によって組織された。

委員長：福本先生、委員：真田先生、嶋本先生、井料先生、藤見、織田澤先生

#### 3) 50 周年記念イベント案の内容について

##### ①50 周年記念セミナーシリーズ

- ・国際セミナーを拡張させるかたちで「50 周年記念セミナーシリーズ (仮称)」を各分野で必要に応じて開催する。
- ・その一つとして、2015 年 7 月または 8 月に開催される ISTTT、INSTR のため来日する著名な研究者に 50 周年記念に関する講演を依頼する案が検討された。この企画案について、讃井氏、井料先生、嶋本先生、福田先生が担当する。
- ・2016 年 8 月には、これらのセミナーシリーズの全体をまとめるかたちで国際シンポジウムを開催する。

##### ②土木計画学ハンドブックについて

- ・土木計画学ハンドブック (資料 2-2) の出版を 50 周年の記念事業として位置づける案が検討された。
- ・多々納幹事長が出版社と交渉する。
- ・50 周年記念セミナーシリーズ (仮称) での成果を土木計画学ハンドブックに反映することが提案された。
- ・ハンドブックの内容として、総論と各論の間に計画のプロセスの議論があったほうがよいとの意見があった。

##### ③土木計画学研究発表会でのスペシャルセッションの開催

- ・H26 春大会において 50 周年記念に関するスペシャルセッションの開催を春大会運営小委員長の轟先生に依頼した。
- ・スペシャルセッションは 90 分の横断セッションとして参加者全員が聴講できるようにする。
- ・各分野の代表的研究者に、土木計画学の現状と今後のありかたについてパネルディスカッションをしてもらう。
- ・セッションのタイトルと内容の選定は福本先生が担当する。
- ・春大会の発表スケジュールでスペシャルセッション開催の余裕があるかどうかについて、3 月上旬には明らかになる。

### 3. JSCE2010の実施状況に関する部門ごとの自己評価 [資料 3]

- ・活動目標・中期目標対応幹事で本年度の活動について分担して記載する。
- ・活動内容については、IP メールに流れた土木計画学に関連するイベントをHPに掲載するので、それをカテゴリーに分けて記載する。
- ・2015年の「①基本目標」～「③アクションプラン」は2014年の夏までに作成する。

### 4. 学会活動の4つの視点からの評価・PRについて [資料 4]

- ・活動目標・中期目標対応幹事で本年度の内容に更新する。

### 5. 平成25年度幹事担当タスクの検討状況報告

①活動評価・中期目標対応：真田\*，三輪\*（H26夏まで不在），嶋本\*，井料，福本，藤見，織田沢  
・本年度の資料3,4を分担して作成する

②本委員会対応：金子\*，福田

③研究小委員会対応：井田\*，有村 [資料5-③]

- ・過去の研究小委員会活動の記録も残しておく。
- ・今年度までにワンデーセミナーを開催できそうな研究小委員会を探して開催をお願いする

④HP担当：平田\*，三輪\*（H26夏まで不在），倉内，藤見，織田沢 [資料5-④]

#### a) HPの内容更新について

- ・HPの内容が古いままになっているので、新しい情報に書きかえる。  
研究小委員会活動、研究発表会概要、
- ・「過去のその他の行事」にIP-MLに流れたイベント案内を掲載する
- ・「ワンデーセミナー」のページにワンデーセミナーの簡単な説明を記載する。
- ・「過去のその他の行事」のページに「土木計画学に関係する行事を案内します」と記載する。

#### b) HPの英語化について

- ・大きな方針は（資料5-④）で示される担当幹事案で承認された。
- ・英語HP作成の今後のスケジュールを作成する
- ・業者と相談しながら英語HPのフレームを作成し、費用の見積もりを行う。
- ・HPのCMS化にかかる費用の見積もりも行う。
- ・英語トップページは日本語トップページと表示されている項目は同じだが、英語コンテンツのない項目にはリンクを貼らない。
- ・研究発表会に関するコンテンツの英語化を学術小委員会に依頼する。そのときには、現在の内容を英語化した案をHP担当幹事が提供する。

⑤国際セミナー：平田\*，藤見，織田沢，讃井 [資料5-⑤]

- ・国際セミナーの開催は順調に行われているとの報告があった。

⑥国際センター担当：嶋本\*

⑦ワンデーセミナー・シンポジウム：真田\*，井田\*，井料，福田 [資料5-⑦]

- ・ワンデーセミナーの規定を明確にすべきとの意見があった。
- ・研究小委員会「9. 長期的な社会基盤政策の評価」日蘭共同セミナーをワンデーセミナーとして設定可能かを真田先生が確認する。
- ・「交通まちづくりの実践」研究小委員会（代表：東京大学・原田昇教授）のワンデーセミナーが

2014年3月8日（土）に土木学会講堂で開催されるとの報告があった（資料5-⑦）

⑧全国大会研究討論会：金子\*、福本

## 6. H26 春大会での電子情報通信学会との連催セッションについて

- ・電子情報通信学会とのセッションを併催について、春大会小委員会の案（資料6）で承認された。
- ・計画学 HP において参加案内を掲載する。
- ・今後も、こうした併催セッションについて、開催校の負担がない限りは積極的に行っていくという方向性が確認された。

## 7. 100 周年ビジョン策定特別委員との意見交換

- 1) 学術小委員長である屋井先生（資料7-1）と100周年関係ビジョン委員会幹事である日比野先生（資料7-2）から土木学会将来ビジョンについての報告があった。
- 2) 意見交換の場で下記のような意見が述べられた。

### 土木計画学のビジョン策定について

- ・土木計画学委員会として、これまでの50年で何をしてきたのか、また今後50年で何をすべきなのかを議論すべき。
- ・土木計画学はこれまで良くも悪くも対象領域が広がってきた。今後も広げていくべきか、逆に狭めて行くべきか、それとも自由な流れにまかせるかを議論すべきである。
- ・今後の方向性は研究者がそれぞれで考えることであって、土木計画学委員会として一つの方向性を定めるべきではない。
- ・土木計画学委員会として今後の研究の方向性を定めるべきではなくても、議論の場を提供することは重要である。
- ・100年後の予想は難しいが、それでも変化しやすいものと変化しにくいもの、変化すべきものと変化するべきでないものの区別はつけられるのではないか。
- ・50年前に記述された展望と現在の状況を比較して、予想がどれほど当たるかを検討すると面白いかもしれない。
- ・土木計画学の大きな流れとして、「計画学の科学化（OR）」→「規範の導入（経済学）」→「計画実践（心理学、文化人類学的手法）」と研究が現場に接近しつつある。
- ・土木専門家と国民が対峙するフレームではなく、土木専門家も国民であるというフレームで考えたほうがよい。

### 土木計画学の現状について

- ・土木計画のなかで分野横断的な議論が少なくなっている。様々な人々が意見をぶつけ合う場があったほうがいい。
- ・現場の課題解決と論文執筆が乖離している。
- ・個別分野に閉じこもり、研究が真理の発見を目指すサイエンス的なものになっている。工学的な研究であるためには、問題を発見、定義することから始め、目に見えるアウトプットを作りだすことが望ましい。
- ・実務の人が学会に参加しなくなっている。

### 今後重要となる研究課題について

- ・舟運、無人小型ヘリコプターによる空輸など、従来注目されてこなかった新しい交通システムにつ

いて研究する必要がでてくる。

- ・CO2のゼロエミッションを目指す。
- ・土木施設では人を死なせない社会を目指す。
- ・ただ単に長く生きるのではなく、健康で長く生きられる社会を目指す。
- ・個人の自由を最大限尊重する新自由主義には限界がきており、公共性を復権させるための研究を多  
なうべきである。
- ・人々の公共性を養う制度をトップダウンで構築することは可能なのか、または「まちづくり」のよ  
うな身近なコミュニティでの共同作業から積み上げて行くしかないのか。
- ・災害に対してゼロリスクな社会を目指すのは不可能であるが、土地利用の規制・誘導等を通じて安  
全な場所に住まわせることで、ほぼゼロリスクに近い社会は実現可能である。
- ・人口減少化における社会経済の縮小の問題について、ネガティブなテーマであるとして避けずに、  
真剣に取り組むべきである。
- ・問題オリエンティッドにしたい。工学としての目に見えるアウトプット
- ・目の前にあるニーズを解決することを目指す。地域問題を解決する。また、国際的な問題、気候変  
動をする。学会でオーサライズされた方法があればよい。
- ・都市と農村のバランスが適正な社会にしたい。
- ・制度ができたとたんに考えなくなるため、仕組みの見直しに向けて自分で考えられるように工夫し  
てききたい。
- ・土木計画学は広く浅くでもよいのか。借り物競走にしないためには、土木工学の人間概論のような  
ものが必要である。
- ・土木計画学はシーズのデーパードでいいのではないか。レシピを作ることが大事である。
- ・成熟社会での計画では、人口減少化といったネガティブなことが逆にメリットになることを考える  
必要がある。
- ・実際の課題を様々なディシプリンから見ることで問題の構造が見えてくる。

## 8. その他

- ・H25 秋大会で開催された国際セミナーを H26 秋大会でも開催してほしいとの依頼があった。
- ・社会人を対象とした公共政策コンペ（ベスト・プラクティス賞）を開催したほうがよいとの意見があ  
った。50 周年の企画とすることも今後検討する。
- ・実務者に無理やりでも研究発表会に参加してもらおう制度があってもよいのではないかという意見があ  
った。
- ・次回幹事会は予算に余裕があれば H26 年 3 月ごろに開催する。開催する場合は後日日程調整を行う。